

石巻南浜津波復興祈念公園基本設計の概要

【平成28年度 第1回 石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会 資料】

平成28年9月7日

目次

1. これまでの検討経緯	1
2. 市民説明会の概要	5
3. 基本設計の概要	8
(1) 基本理念と基本方針	8
(2) 基本デザインコンセプト	9
(3) 場所性と機能の重ね合わせ	10
(4) 公園計画平面図	11
(5) イメージパース	12
(6) 植栽計画の考え方	13
(7) 植栽タイプ	14
(8) 花修景の考え方	15

1. これまでの検討経緯

平成23年3月11日 東日本大震災の発生

平成23年度

平成23年12月

- ・石巻市が震災復興基本計画を策定
- ・震災復興基本計画で震災復興のシンボルとなる公園の整備を位置づけ

平成24年1～3月

- ・東日本大震災復興祈念公園検討会議
(事務局：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課)
【行政による検討会議（計3回開催）】

- ・震災復興祈念公園基本構想検討会
(事務局：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課)
【有識者委員会による技術的検討（計3回開催）】

「震災復興祈念公園のあり方」が示される

- ・犠牲者への「追悼・鎮魂」、「震災の記録・教訓の伝承」は、全ての復興への礎
- ・復興を目指す地域の姿を想起させるとともに、地域コミュニティの修復・構築に繋がる空間となることが求められる
- ・観光・教育資源ともなり、地域振興面でも大きな役割が期待

平成24年3月

- ・「震災復興祈念公園整備のあり方」を整理
(『東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方検討業務報告書 平成24年3月 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課』をとりまとめ)



1. これまでの検討経緯

平成24年度

平成24年12月～
平成25年2月

- ・「南浜地区・中瀬公園 미래の公園づくりワークショップ」（事務局：石巻市）



平成25年度

平成25年6月

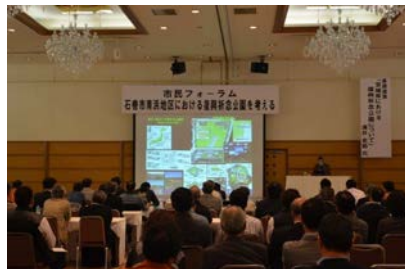
- ・石巻市南浜地区の復興祈念公園整備を求めるための要望書を関係省庁に提出
【主な提出先：国土交通省】

平成25年10月～
平成26年3月

- ・「宮城県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会」
（事務局：国土交通省 東北地方整備局、宮城県、石巻市）

平成25年10月

- ・「石巻市南浜地区における復興祈念公園を考える 市民フォーラム」



平成26年2月

- ・「石巻市南浜地区復興祈念公園（仮称）基本構想（案）」パブリック・コメントの実施

平成26年3月

- ・「石巻市南浜地区復興祈念公園（仮称）基本構想」策定・公表

1. これまでの検討経緯

平成26年度

平成26年8月～
平成27年3月

- ・「宮城県における復興祈念公園基本計画検討調査有識者委員会」
【3回の会議、5回の空間デザイン検討部会、4回の植栽計画検討部会】



平成26年10月

- ・「国営追悼・祈念施設（仮称）」の設置に関する閣議決定

平成27年3月

- ・「石巻市南浜地区における復興祈念公園を考える市民フォーラム」
- ・国連防災世界会議 パブリック・フォーラム



平成27年度

平成27年4月

- ・東北地方整備局に「東北国営公園事務所」設置
「国営追悼・祈念施設（仮称）事業化」

平成27年5月～6月

- ・「石巻市南浜地区復興祈念公園（仮称）基本計画（案）」パブリック・コメントの実施

平成27年8月

- ・復興庁より基本計画公表
- ・「石巻南浜地区復興祈念公園空間デザイン検討委員会」（東北国営公園事務所）設置 年6回開催

1. これまでの検討経緯

平成27年度

平成27年10月～
平成28年3月

- ・「石巻市南浜地区復興祈念公園有識者委員会」（宮城県）設置
- ・市民公募による「石巻市南浜地区復興祈念公園計画検討協議会」（石巻市）設置（4回の協議会で、市民意見を公園計画に反映）
- ・第2回有識者委員会（3月9日開催）において基本設計公表



平成28年3月

- ・旧門脇小学校校舎について一部保存する方針を亀山市長が記者会見で表明

平成28年度

平成28年4月

- ・「がんばろう！石巻」看板
および「南浜つなぐ館」の
機能移転

初代看板



二代目看板



平成28年5月

- ・石巻南浜津波復興祈念公園
基本設計市民説明会を開催
（5月29日）



2. 市民説明会の概要

○石巻南浜津波復興祈念公園基本設計市民説明会

【開催日時】 平成28年5月29日(日) 10:00～12:30

【会 場】 石巻市石巻中央公民館 大ホール

【参加者数】 約50名

■説明会の目的

○南浜津波復興祈念公園の基本設計の説明を行い広く市民に周知する。

○計画検討協議会の活動や基本設計への反映結果について報告する。

○「追悼」・「伝承」を大きなテーマとする公園の今後の管理運営や、植樹、伝承活動等の活動に対して市民、行政、関係団体等の関わり方を考える機会とする。



会場との意見交換の様子

ープログラムー

■講演「石巻南浜津波復興祈念公園基本設計」
について :佐々木 葉

■報告「石巻市南浜地区復興祈念公園計画検討協議会」について:松村 豪太

■パネルディスカッション

石巻南浜津波復興祈念公園の「今後の運営のあり方」、「市民の関わり方」について

◆コーディネーター

佐々木 葉(早稲田大学教授)

◆パネリスト

阿部 聡史(環境デザイナー)

小野田 泰明(東北大学教授)

亀山 紘(石巻市長)

黒澤 健一(がんばろう石巻の会事務局長)

古藤野 靖(こころの森代表理事)

松村 豪太(ISHINOMAKI2.0代表理事)

脇坂 隆一(東北国営公園事務所長)

渡部 桂(東北芸術工科大学准教授) ※敬称略

主なご意見

■公園計画全般について

○50～100年先を見据えて計画して欲しい。普段着の公園を望みたい。

○世界の観光客を魅了するデザインが必要。

○ご遺骨や遺品があるかもしれない場所だということをメッセージとして残して検討してほしい。

○呼びやすく親しみやすい愛称が必要で、市民意識を高め周知させるために、公募するのも良い。

■施設計画について

○遺族が衷心から追悼を捧げられるモニュメントを設置してほしい。

○大勢の人が暮らしていたことがわかるように石碑、記念碑を立ててほしい。

○イベントや式典等を考慮した駐車場計画が必要ではないか。

○防災学習ミュージアム館の建設を要望する。

○公営の公園であるが、喫茶・軽食のスペースのデザインがおもてなしの心として大切である。

○水は見たくない方もいることや、地下水の塩分が強く、風が強いことを考える必要がある。

○地場の産品・産業である、地材の井内石を活用してほしい。

○市民が自分で維持できる範囲の施設とすべき。

主なご意見

■市民の参画について

○賛成も反対も含めて、検討プロセスでの市民の様々な意見を記録として残してほしい。

○これまでの意見や流れを報告したり発表したりする機会を計画してほしい。

○若い世代や子ども達の意見を取り入れることで、後世への伝承効果が上がると思う。

○引き続き、市民の意見を反映できる協議会などの仕組みが必要と考える。

○集約した意見とその解答について、市民全体での共有化を諮ってほしい。

○現在は、市民活動のルールがなく、一般的に公募もされずに物事が決まっている状況。今後はそのような状況を払拭するような体制としてほしい。

○行政主導ではなく、市民側で使い、育んでいくプログラムを前向きに検討してほしい。

○植樹以外の「市民参加型の施工」で公園づくりに参加できる仕組みづくりを検討してほしい。

3. 基本設計の概要

(1) 基本理念と基本方針(基本構想にて設定)

基本理念

東日本大震災により犠牲となったすべての生命(いのち)への追悼と鎮魂の思いとともに、

- まちと震災の記憶をつたえ
- 生命(いのち)のいとなみの杜をつくり
- 人の絆(きずな)をつむぐ

基本方針

・犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築する

宮城県や被災地全体の追悼と鎮魂の中核的な場所として、祈りの空間を整備する。

・被災の実情と教訓を後世に伝承する

この地のこれまでの歴史と震災後の環境変化、被害を実感し、教訓を伝承する場を整備する。

・復興の象徴の場としてメッセージを国内外に発信する

美しい杜への再生により、震災からよみがえる被災地の姿と重ねあわせた復興の象徴空間を整備する。

・多様な主体の参画・協働の場を構築する

人と人とのつながりの再生が、真の復興につながるため、多様な主体が参画・協働できる場を構築する。

・来訪者の安全を確保する

適切な避難が円滑にできるよう、避難場所となる丘や周辺の高台への避難経路などを整備する。

3. 基本設計の概要

(2) 基本デザインコンセプト

～浜・街・追悼と伝承の場所性を重ねる～

- かつての環境と現状を踏まえ、土地本来の自然を育む
- 暮らしの記憶を街路網に刻み、これを感じる
- 追悼と鎮魂の思いとともに、まちと震災の記憶をつたえ、生命(いのち)のいとなみの杜をつくり、人の絆(きずな)をつむぐ

土地の履歴

- ・ かつての湿地と松原であった場所。
- ・ 津波で街が消失、本来の自然に回帰しつつある。

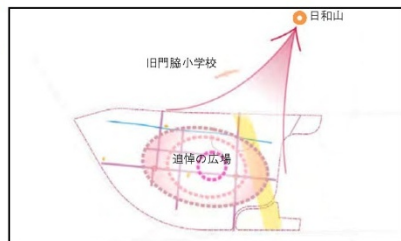
街の記憶

- ・ 市街地が大津波で消失したが、暮らしの記憶を再生する手がかりが残っている。
- ・ 人々の心に暮らしの記憶がある。

追悼と伝承

- ・ 自然への畏敬の念と暮らしの記憶を持ち、追悼と教訓の伝承とともに、復興への意思を伝え続ける。
- ・ 命の尊さを実感する公園づくりを通じてこの土地に係わり続けていく。

追悼と伝承



追悼と伝承（東日本大震災後）

犠牲者への追悼と鎮魂の思い
地震と津波、その後の火災で甚大な被害を受けた記憶
日和山に避難した記憶
災害への備えと教訓の伝承の思い

街の記憶



東日本大震災の発生

街（昭和30年代～東日本大震災まで）

- ・ 利便性が高く、閑静な住宅街
- ・ 南浜町二丁目、三丁目からの宅地化の進展
- ・ 震災前の街の記憶
- ・ 元住民の暮らしの記憶

土地の履歴



市街化の進展

浜（昭和20年代まで）

- ・ 善海田と呼ばれた水田と湿地
- ・ 浜堤地形と松原
- ・ 聖人堀
- ・ 集落の形成された微高地
- ・ 水や海の安全を祈願した史跡

祈念公園

南浜地区の土地の履歴を示すかつての「浜」、市街化後の南浜地区への想いや記憶が残る「街」を土地利用の前提とし、東日本大震災による犠牲者を追悼し、被災の教訓を次世代へと伝承していくことを祈念する

- 公園全体が「犠牲者の追悼ができる」空間
- かつて街と暮らしがあったことを実感できる空間
- 式典や伝承が可能な中核的空間
- 雨水調整と自然の育みを併せ持つ湿地・池沼
- 美しい杜づくりと多様な主体の参画・協働

- 街の遺構（街路、聖人堀、史跡、建物基礎）
- 本来の自然に回帰した湿地環境
- 浜堤地形と松原

- 市民のこの地への係わり方を組み立て、プロジェクトとしてつくり続ける

3. 基本設計の概要

(3) 場所性と機能の重ね合わせ

各レイヤーの要素抽出

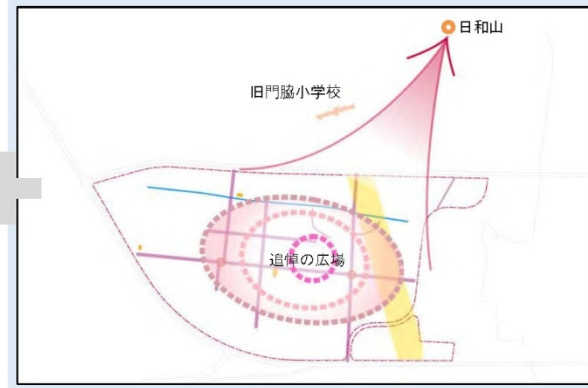
「街の記憶」



復興祈念公園の空間機能



復興祈念公園の空間構成概念

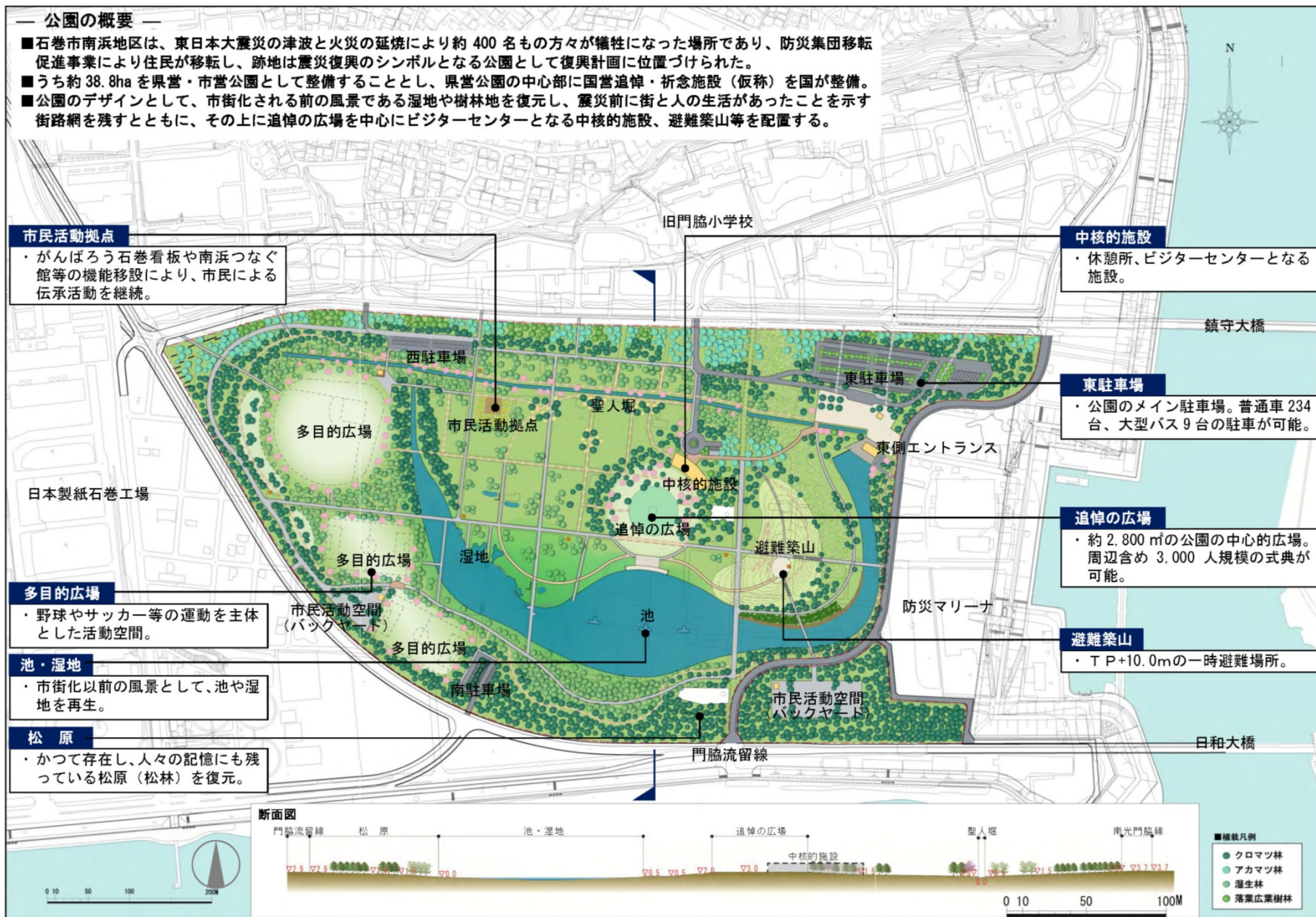


「土地の履歴」



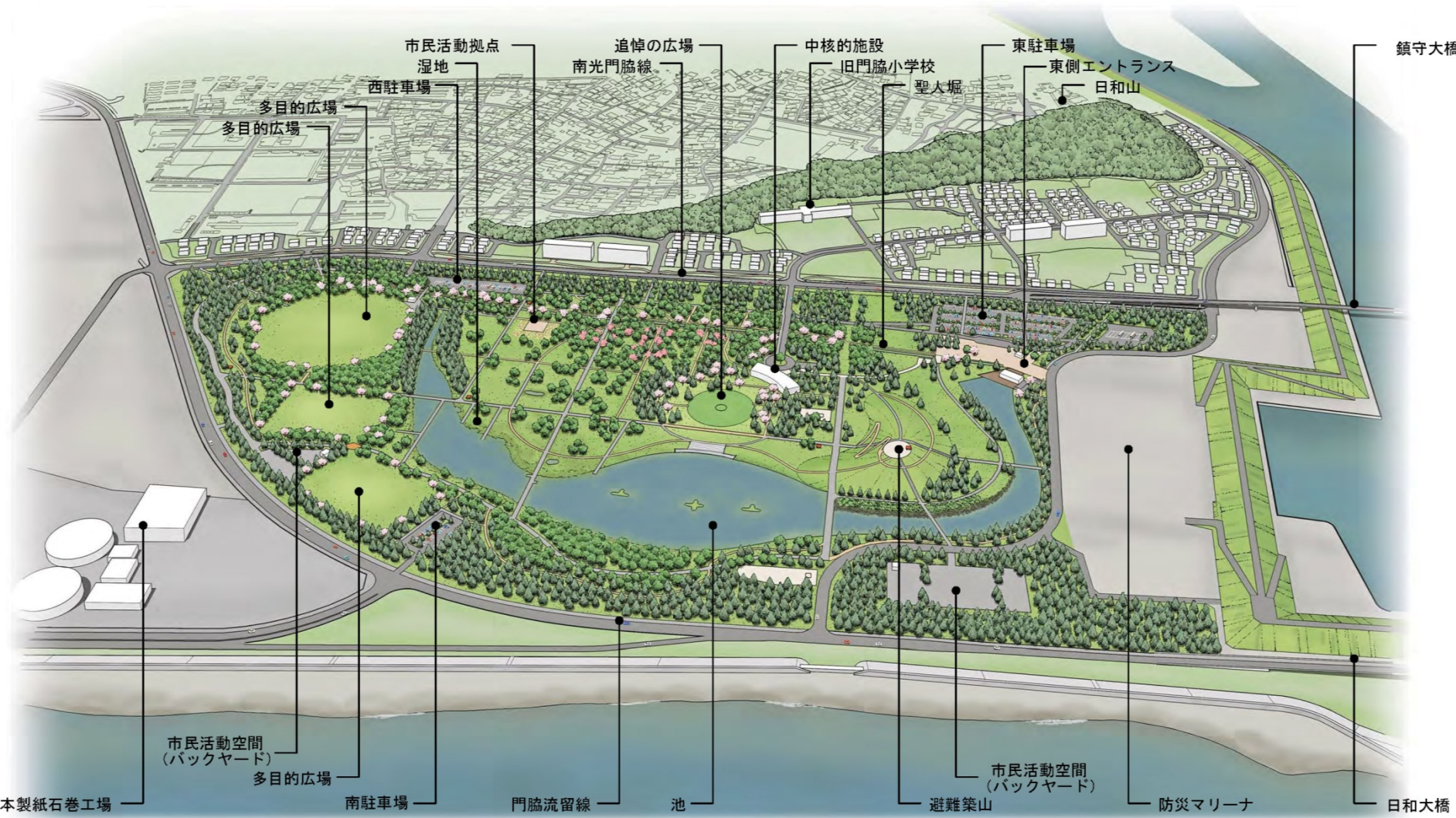
3. 基本設計の概要

(4) 公園計画平面図



3. 基本設計の概要

(5) イメージパース



3. 基本設計の概要

(6) 植栽計画の考え方

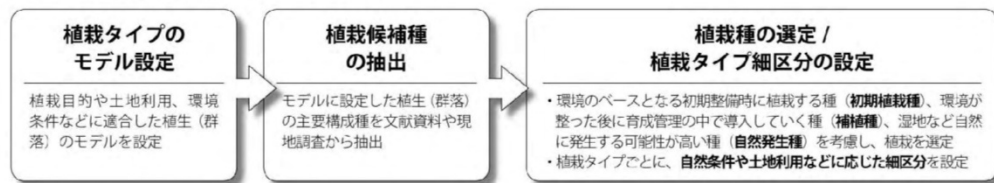
植栽計画の考え方

- 南浜の自然条件や、新たに整備される植栽基盤条件をふまえ、成立可能な自然植生や郷土種の植栽環境を再生・創出する。
- 地域固有の自然や環境の再生・創出を目指していくため、成立可能なものの中で、計画地周辺に現存する自然植生や郷土で歴史的に形成された植栽をモデルに設定していく。

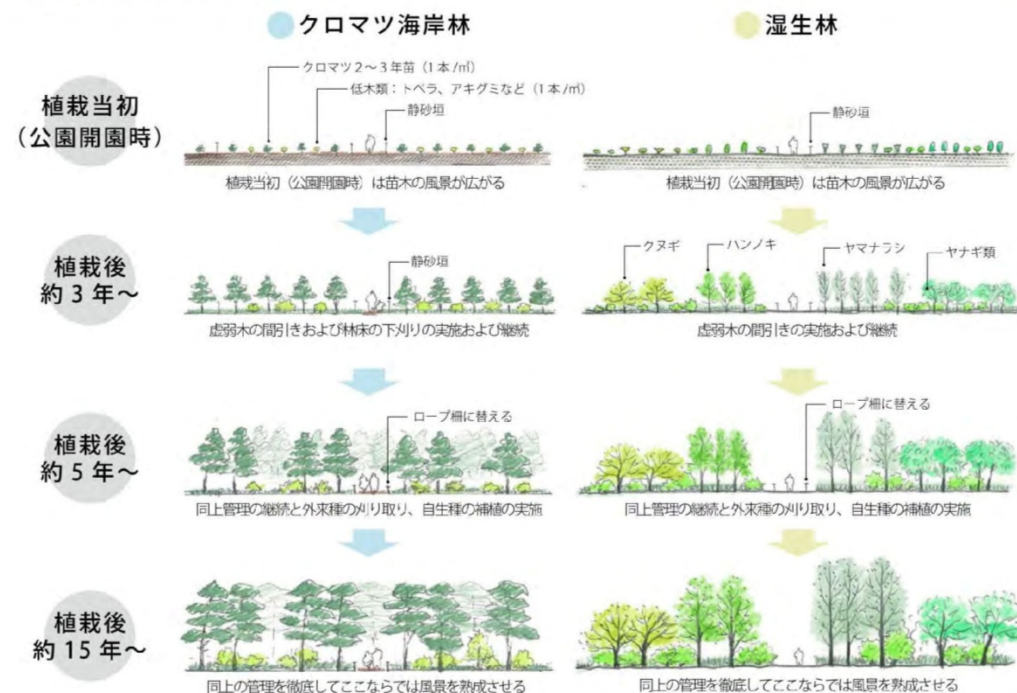
(以上、右巻市南浜地区復興祈念公園(仮称)基本計画より抜粋)

植栽種選定の考え方

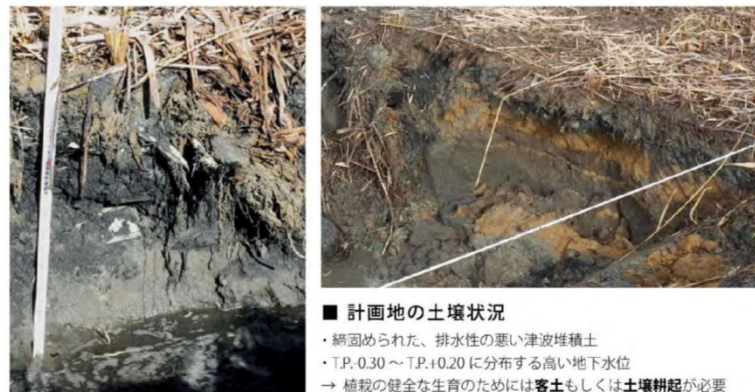
本公園に用いる植栽樹種は、下記のフローで選定した。



植栽の育成段階の考え方(一例)



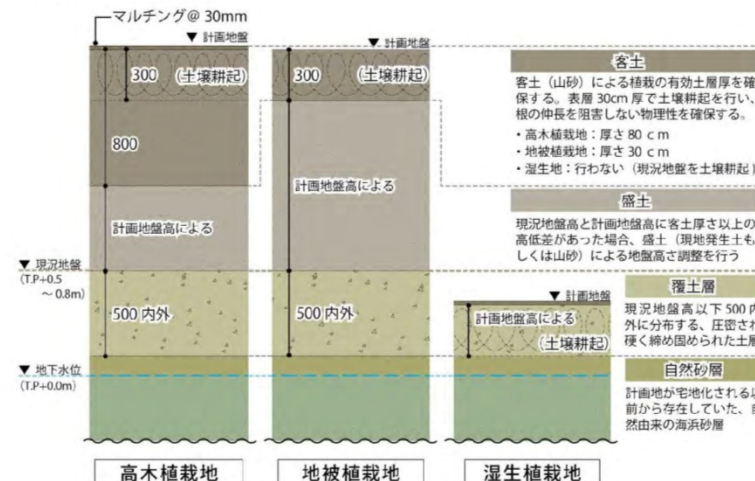
植栽基盤の考え方



■ 計画地の土壌状況

- ・ 締固められた、排水性の悪い津波堆積土
- ・ T.P. 0.30 ~ T.P. +0.20 に分布する高い地下水位
- 植栽の健全な生育のためには**客土**もしくは**土壌耕起**が必要

■ 植栽基盤仕様



現地表土の保全および活用

本公園では地域の植生の復元を重視することから、現地の埋土種子や菌類および土壌微生物を含む表層土の保全と利用を大前提としている。本公園では、この表層土を「**里土**」と呼ぶ。

本計画で里土を活用するために、苗木生産の段階からポット用土に里土を混入させる「**里土苗への活用**」と、植栽基盤の表層に里土をすき込む「**表土復元への活用**」の2通りの手法についてを検討する。

確保できる里土の土量に限りがあることや、苗木の品質確保の必要性があることから、「**育苗ポット用土への活用**」を優先的に検討していく。

3. 基本設計の概要

(7) 植栽タイプ

現時点における基本設計図に対して、公園の「環境条件」や「植栽基盤条件」、「土地利用」などに応じた植栽タイプの配置を想定した。

(本計画図は確定したものではなく、今後の空間構成の検討の進捗に応じて更新を行う)



落葉広葉樹林内の小道 (イメージ)



微高地上のアカマツ林 (イメージ)



街の記憶を想起させる梅林 (イメージ)



開放的な芝生広場 (イメージ)



聖人塚沿いのソメイヨシノ (イメージ)

■ 植栽凡例

- クロマツ林**
(ハマナス、ツツブキなど)
- アカマツ林**
(アカマツ、ガマズミ、ヤマツツジなど)
- 落葉広葉樹林**
(イヌシデ、コナラ、ヤマザクラなど)
- 湿生林**
(ハンノキ、ヤナギ類、ニシキギなど)
- 常緑広葉樹低木林**
(マサキ、トベラ、ジャリハイ、ハマナスなど)
- 湿生草地**
(カササゲ、コガマ、ミノハギ、コウホネなど)
- 野草地**
(チガヤ、ツルボ、ヤマハギなど)
- 高麗芝生地**
(コウライシバ)
- 洋芝生地**
(ブルーグラス、フェスクなど)
- 花畑**
(ナノハナ、ヒマワリ、コスモスなど)
- ソメイヨシノ**
- ウメ**

■ 主要な植栽タイプの地盤高さ設定

- ・アカマツ林・落葉広葉樹林：T.P.+2.0 m以上
- ・クロマツ海岸林・クロマツ疎林：T.P.+1.0 m以上
- ・湿生林（ハンノキ・ヤナギ類）：T.P.+0.5～1.0 m
- ・湿生草地：T.P.+0.5m 以下



クロマツ海岸林 (イメージ)



クロマツ林と芝生広場 (イメージ)



冬のヨシ原と水鳥 (イメージ)



湿生草地と水鳥 (イメージ)



様々な草丈の野草地 (イメージ)

3. 基本設計の概要

(8) 花修景の考え方

木本

園芸種

計画地の環境条件に適応できる園芸種を用いて、公園の随所に四季の彩りを演出する



ソメイヨシノ



ウメ (梅林)



アジサイ類



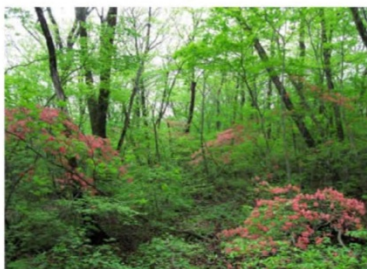
ミヤギノハギ

自生種

地域の自然植生の構成する木本を用いて、公園の随所に四季の彩りの演出を行う



ヤマザクラ



ヤマツツジ



マユミ



ハマナス

草本

自生種

地域の自然植生の構成する草本を用いて、公園の随所に四季の彩りの演出を行う



ミンハギ



ツワブキ



ハマギク



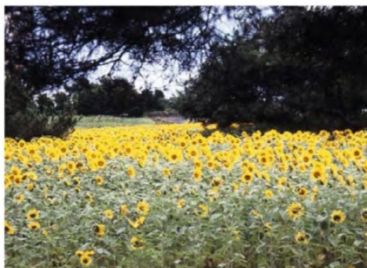
ノハナショウブ

花畑

大きいスケールで展開することでより魅力が引き立つ花によって、四季折々の魅力付けを行う



ポピー



ヒマワリ



コスモス



スイセン類